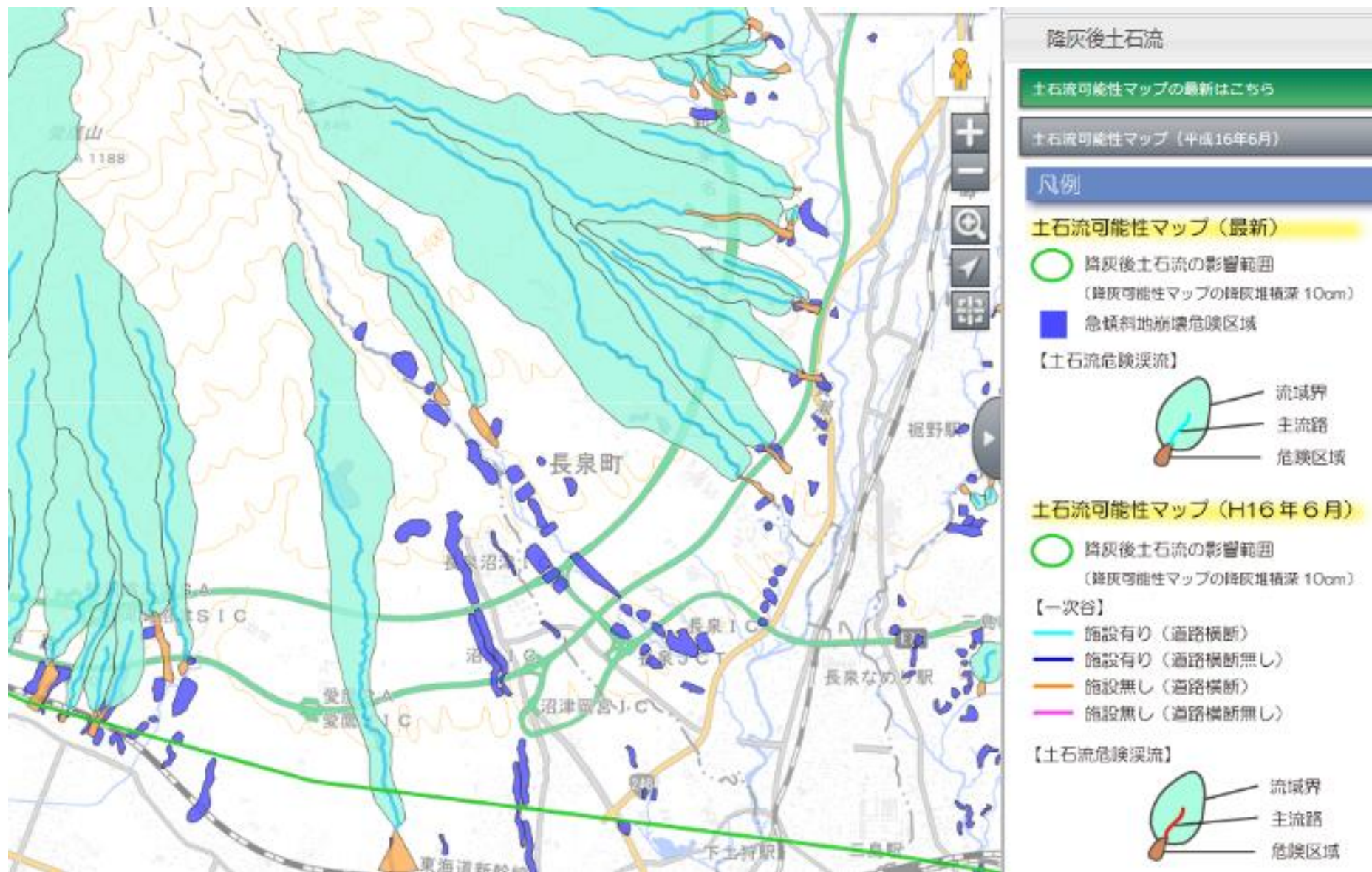
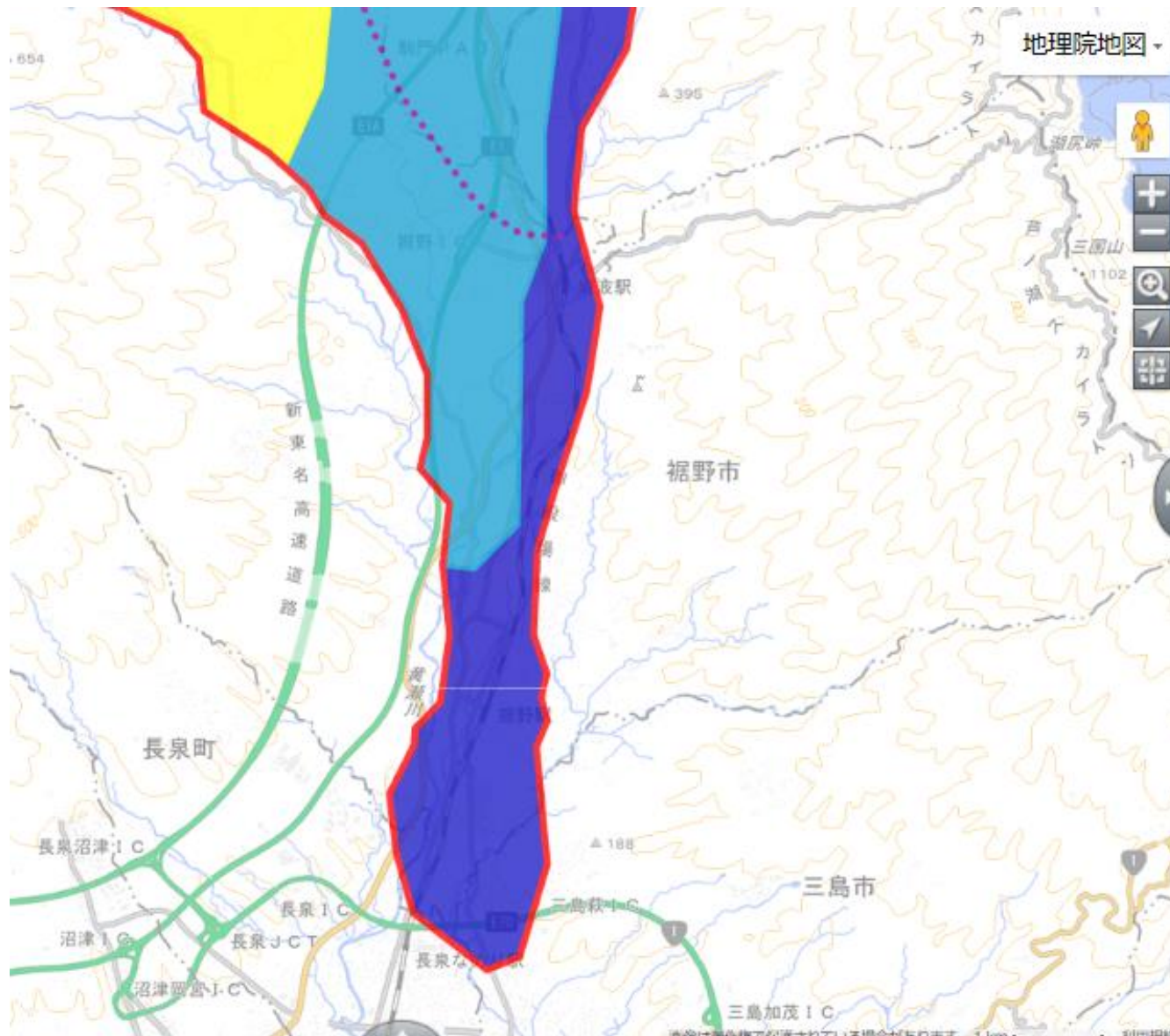


溶岩流可能性マップ



降灰後土石流の影響範囲



溶岩流・噴石・火砕流・融雪型火山泥流の防災マップ

溶岩流等の避難対象エリアとライン

凡例

防災マップ

- 火口ができる可能性の高い範囲
- 噴火しそうな時、噴火が始まった時すぐに避難が必要な範囲
- 火砕流が発生した時に、高温のガスが高速で届く範囲
- 火口から噴出した石がたくさん落ちてくる範囲
- 溶岩が流れ始めた場合に、すぐ到達するかもしれない範囲
- 火口位置によっては避難が必要な範囲
- 雪が積もっている時に噴火しそうな場合に、沢や川には近寄らないようにする必要がある範囲

エリアとライン

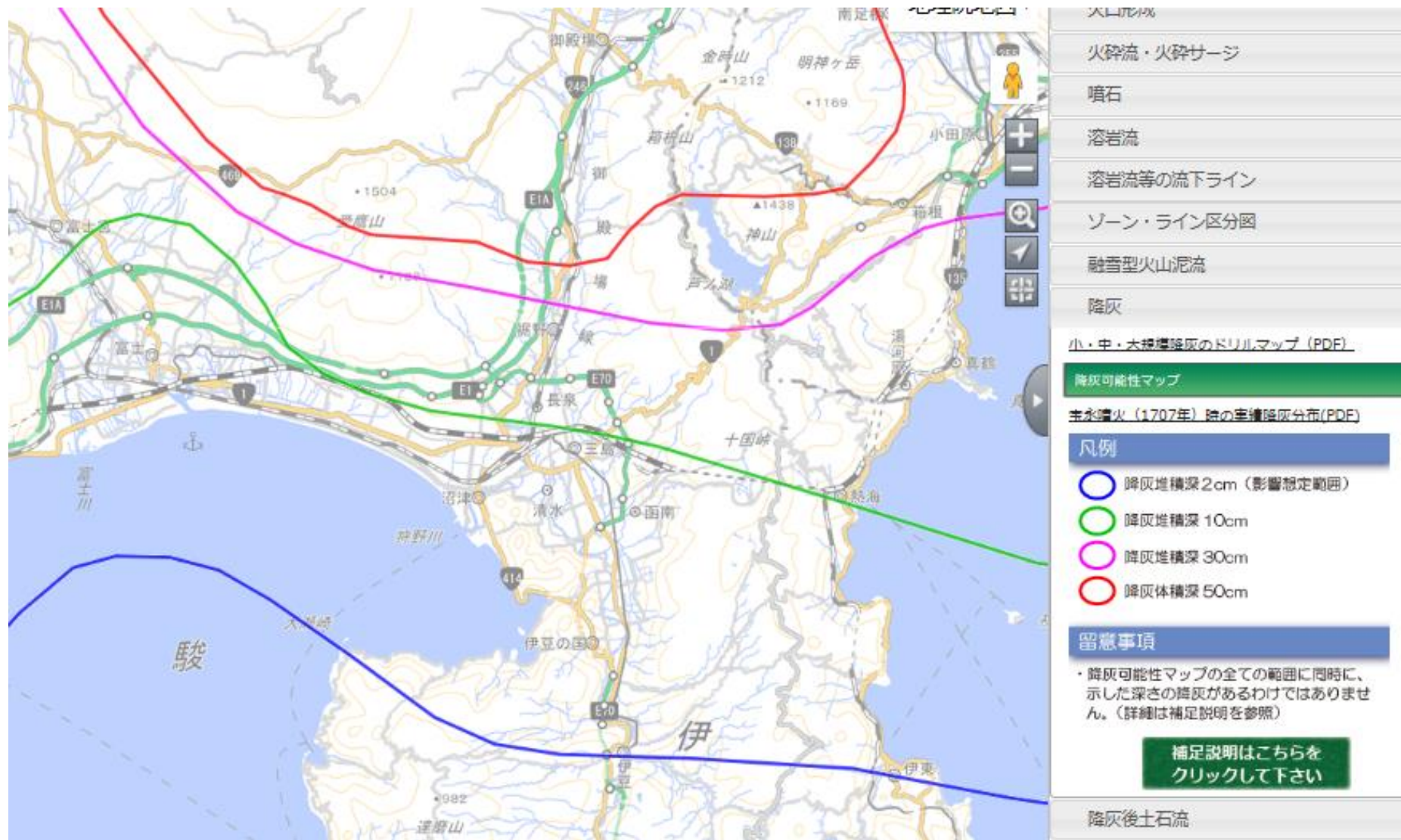
- 影響想定範囲
- ライン
- 第1次避難対象エリア
【想定火口範囲】
- 第2次避難対象エリア
【火砕流、大きき噴石、溶岩流（3時間以内）到達範囲】
- 第3次避難対象エリア
【溶岩流（3時間～24時間）到達範囲】
- 第4次A避難対象エリア
【溶岩流（24時間～7日間）到達範囲】
- 第4次B避難対象エリア
【溶岩流（7日間～約40日間）到達範囲】

補足説明はこちらをクリックして下さい

融雪型火山泥流

降灰

溶岩流等の避難対象エリア



降灰可能性マップ



が出てくる場合があります。

- 火口形成
- 火砕流・火砕サージ
- 噴石
- 溶岩流
- 溶岩流等の流下ライン
- ゾーン・ライン区分図
- 融雪型火山泥流
- 降灰

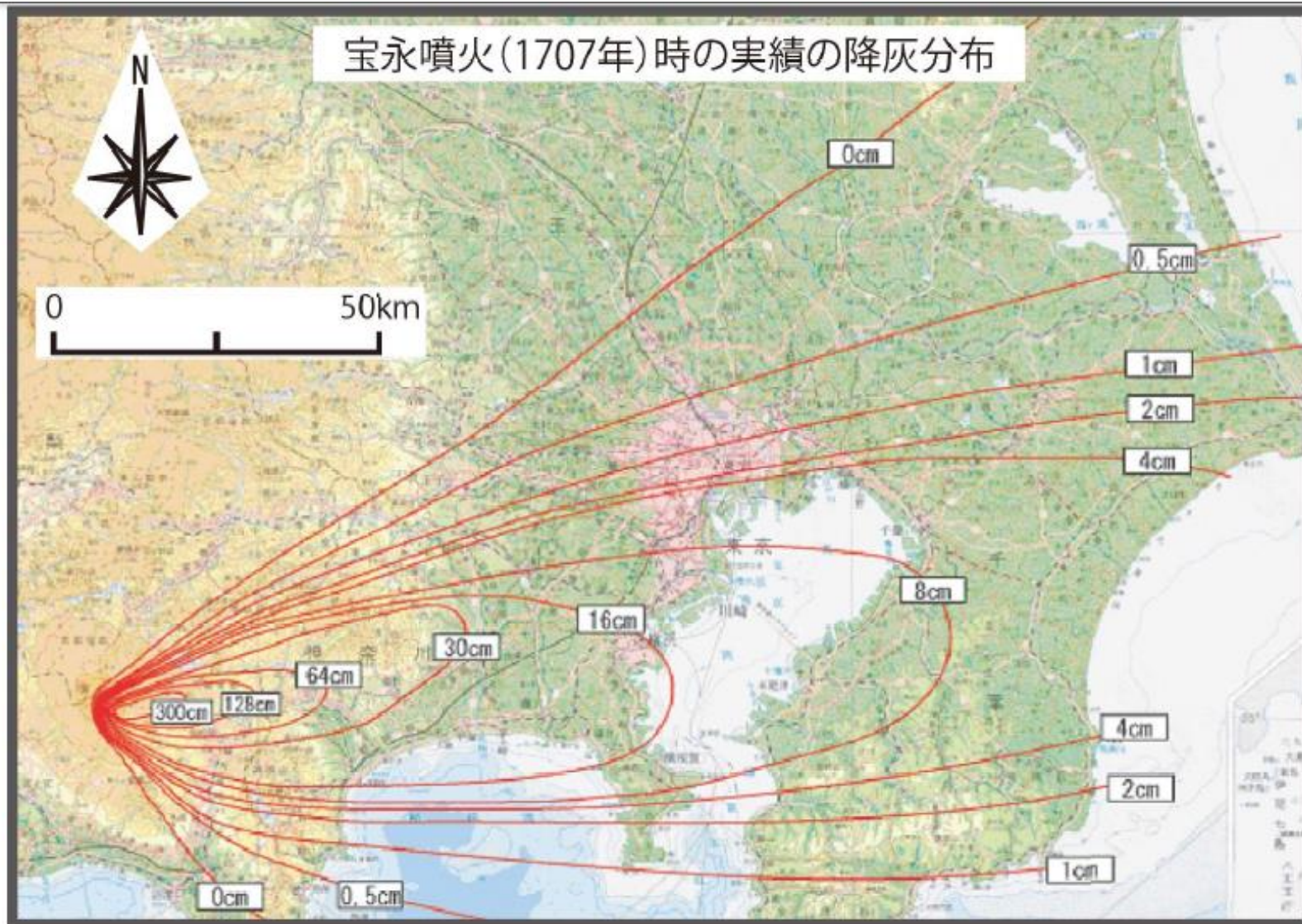
- [小・中・大規模降灰のドリルマップ \(PDF\)](#)
- 降灰可能性マップ**
- [主永噴火\(1707年\)時の累積降灰分布\(PDF\)](#)

- 凡例**
- 降灰堆積深2cm (影響想定範囲)
 - 降灰堆積深10cm
 - 降灰堆積深30cm
 - 降灰堆積深50cm

留意事項

- ・降灰可能性マップの全ての範囲に同時に、示した深さの降灰があるわけではありません。(詳細は補足説明を参照)

降灰可能性マップ



冬に噴火した場合の降灰分布の例